



可愛い子ども雛が町並み保存地区を彩る



2月6日から3月7日までの間、町並み保存地区一帯で、たけはら町並み雛めぐりが開催されました。期間中、雛人形の展示の他に、お雛様を手作りする体験教室や三味線ライブなども行われ、町並み保存地区は観光客でにぎわいました。2月28日には、子ども雛めぐりが初めて開催され、約30人の子どもたちが可愛らしい着物姿で町並み保存地区を練り歩きました。三味線の音に合わせながら、いつ

もより少しおすまじして歩くわが子の晴れ姿に、保護者のみなさんも満面の笑顔。慣れない着物で石畳を歩く子どもたちに、「がんばって。とっても可愛いよ。」と声援を送るほほえましい光景も見られました。子どもたちの着物姿と町並み保存地区の雰囲気も合っていて、改めて竹原の古きよき町並みのすばらしさを実感させられる日となりました。子ども雛めぐりの後、町並み保存地区の至る所で、飾られた雛人形をじいっと食い入るように見る子どもたちの姿もありました。子どもたちにとっても、文化に親しむ貴重な一日となったのではないのでしょうか。



3月5日、市役所で「竹原市学校給食センター」のニックネームとマスコットの最優秀作品に選ばれた児童2人が表彰されました。学校給食センターのニックネーム「竹原すくすくセンター」を考えたのは、吉名小学校6年生の藤見空くん。「竹原市は竹が有名です。それに、竹は根をはって、まっすぐにぐんぐん伸びます。給食を好き嫌

ニックネームは「竹原すくすくセンター」
マスコットは「竹ちゃん」に決定!!



いなく食べて、竹のようにすくすく育って、丈夫な体になるといいなと思います、この名前をつけました。」と、話します。給食が自分たちの健康に関わることをしっかり理解して、思いをこめて名づけてくれました。マスコットの作者は、忠海東小学校6年生の安岐直将くん。「竹ちゃん」がどうやって誕生したのか尋ねると、「竹原らしいだけのこと、給食を作ってくれている人をイメージして描きました。自分がつくったキャラクターが採用されて、うれしいです。」と、答えてくれました。「自分たちが食べる給食は、誰かが一生懸命つくってくれている」そんな作り手への感謝の気持ちで、「竹ちゃん」を生み出すきっかけになったようです。児童の「食」への思いもせて、9月からスタートする学校給食センター。栄養バランスのとれた給食をみなさんのところに届けます。



竹原市環境審議会が答申

3月12日、市役所で竹原市環境審議会が竹原市環境基本計画の策定について答申しました。市では、10年間の計画である環境基本計画に基づいて、地球温暖化や環境美化などに市民のみなさんと積極的に取り組んでいきます。



みなさんようこそ！竹原へ

3月5・8日、竹原市・三原市・東広島市・大崎上島町・世羅町で行う広島臨空広域都市圏定期観光バスツアーが開催されました。5日の「せと温泉とひなめぐり」のコースには、41人が参加し、竹原市で温泉や雛めぐりを楽しみ、世羅町でワインの試飲や夢吊橋などを満喫しました。参加者の感想には、「普段行く機会がない場所に安く行くことができ、とても良かった。」「竹原の古い町並みや大久野島でやすらげた」といったものがありました。これを機会に、ぜひまた訪れてほしいですね。

温かい拍手とともに旅立つ

3月19日、市内小学校で卒業式が行われました。大乘小学校では、25人が小学校を旅立ちました。退場の時には、先生や在校生、保護者のみなさんの温かい拍手に包まれ、涙ぐむ児童もいました。中学校でも、がんばってください。



ついに完成！「中通がっぱい」

3月19日、中通小学校の児童と末広堂さんが一緒につくったお菓子、「中通がっぱい」が完成しました。パッケージも中のお菓子も児童がアイデアを出した力作。今後は、学校行事等で出番があるようです。



知っていますか 脳卒中の対処法

3月13日、荘野公民館で呉・芸南地域高専大学連携センター、広島商船高等専門学校、広島文化学園大学、呉工業高等専門学校が連携して行う市民支援セミナーが開催されました。

セミナーの内容は、脳卒中が起こった時の応急措置法や健康測定、老後の悩み事の相談会など。日頃生活していて気になる情報が得られるということもあり、当日は109人が参加し、学生や専門家の話に真剣に耳を傾けていました。学生が行った脳卒中対処法を実演する寸劇では、分かりやすい説明に参加者から「なるほど」の声が上がっていました。

シニア世代が熱戦をくりひろげる

3月21日、バンブー公園でスローピッチソフトボールバンブー大会が開催されました。県内でもチームが作られ、生涯スポーツとして広がりを見せています。竹原の最年長選手は、74歳です。

